

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム せせらぎ		
所在地	山口県周南市大字鹿野上2755番地の1		
電話番号	0834-68-5454	事業所番号	3577400066
法人名	社会福祉法人 鹿野福祉会		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 26 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 30 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人 非常勤 3 人 (常勤換算 7.5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	1 階建ての	~	1 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	18,600 円	敷金	無	円
保証金	有	100,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	350 円	
	夕食	350 円	おやつ	100 円	
その他の費用	月額	円			
	内訳	光熱水費 1日600円、娯楽費 1日100円、日用品費 1日100円			

(4) 利用者の概要 (10月13日現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1	2	要介護 4		
	要介護 2	5	要介護 5	1	
	要介護 3	1	要支援 2		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 鹿野博愛病院 歯科
-------------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員は利用者一人ひとりに寄り添い、話をゆっくり聴いて、思いを共感することで、利用者が心穏やかに過ごせるケアをされています。利用者の希望をメニューに取り入れながら、三食とも事業所で調理され、利用者は野菜の下ごしらえや後片付けなど、できることを職員と一緒にしておられます。

(特徴的な取組等)

自主勉強会を職員全員で取り組まれ、働きながらトレーニングして、サービスの質の向上に努められています。栄養士、調理師の資格を持った職員が介護職に携わり、利用者の支援に活かせるよう取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果について、職員で事業所独自の理念を検討したり、看護師による応急手当の勉強会をし、改善に取り組んでおられます。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者、職員は評価の意義を理解され、全職員に自己評価書を配布して、内容について勉強会を行い、作成されています。

(運営推進会議の取組状況)

民生委員、家族、利用者2名、介護相談員、地域ボランティア、市福祉介護課職員、母体施設長、ホーム長、管理者、計画作成者で3ヶ月に1回実施し、ホームでの状況や、外部評価結果等を報告し、参加者からの意見や要望を聞いて、サービスに活かすよう取り組まれています。

(家族との連携状況)

面会時や電話、家族参加の盆踊り大会等で利用者の状況を報告し、家族の要望や意見を聞いて連携を取られています。せせらぎ新聞を年を3回発行し、行事や予定、職員の紹介をされています。

(地域との連携状況)

運動会や祭り、母体施設や自治会と共同で開催する盆踊り大会等地域の方々と交流できる行事に参加して、地域連携を図っておられます。日々の散歩や買物等でも声をかけられ、地域との交流も盛んに行われています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「洞察・受容・信頼・共感・平穏」という法人の理念に基づいているが、事業所独自の地域密着型サービスとしての理念は検討中である。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の作成</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関や事務所に掲示し、全職員が会議で理念について話し合い共有し、日々のケアに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会と母体施設の共催による盆踊り大会や祭りなどの行事に積極的に参加し、地元の人々と交流することに努めている。散歩や買い物などで地域の方々との挨拶を交わしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、サービスの質の向上の場と捉え、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>市職員、介護相談員2名、利用者2名、家族、地域ボランティア、施設長、ホーム長、管理者、計画作成担当で、3ヶ月に1回開催し、ホームの状況や評価の取り組み状況等を報告し、意見や要望を聞き、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議以外にも、電話等で相談したり、情報交換をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時や盆踊り大会等の行事参加時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告したり、家族の希望や要望を聞いている。やまなみ荘だより、ホームだよりを発行し、行事予定や、職員の異動等報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き、運営に反映している。相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確にしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤3名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるように職員を確保している。管理者はフリーで調整可能な体制にしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑える努力をしている。異動や離職時は利用者へのダメージを防ぐよう配慮し、全職員で対応している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営者、管理者は職員が希望する研修会には積極的に参加させるとともに、研修会参加後は勉強会等で共有している。母体施設で月1回、認知症ケアスタッフ合同研修会が行なわれ、職員も参加している。自主勉強会を職員全員で開催し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加したり、認知症介護・実践者研修の実習を受け入れ、同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	施設からの入居が多いため、家族の協力を得て、本人が落ち着いて暮らせるよう相談しながら、場の雰囲気に馴染めるような関係づくりを工夫している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	自立支援を基本に調理、食材の買物、洗濯、ごみ出しなど一緒に行ないながら、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々の行動や会話の中から、利用者の思いや希望の把握に努め、「ケース記録」に記入し、全職員で共有しケアに努めている。困難な場合は、家族と相談しながら本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	毎月1回ケアカンファレンスを開催し、全職員で話し合い、本人や家族の意見を反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。変化が生じた時は随時、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	医療連携体制を取っており、看護師による日常的な健康管理、受診の送迎や付き添いの支援、理美容院への送迎、自宅訪問等柔軟に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関がかかりつけ医になっているが、本人や家族の希望を大切に、納得の得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療が受けられる支援をしている。かかりつけ医に2週間毎に受診することで利用者の安心につながっている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホームでの看取りはしない方針であり、重度化に向けて早い段階から、主治医や本人、家族とよく話し合い、方針を全員で共有している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応について勉強会や引き継ぎ等で注意し合い研修を行っている。記録等の個人情報は事務所に保管し取扱いに配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床や就寝、入浴、食事等のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを大切に、その人らしい生活が出来るように希望に添って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の希望をメニューに加え、三食ともホームで調理している。食材の購入や下ごしらえ、片づけを利用者と一緒に、職員も同じ食事を食べながら会話をしたりして食事が楽しみなものになるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回で13:30～16:30に決めているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。夏場はシャワー浴、冬場は足浴などに対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買物、野菜の植え付けや収穫の楽しみ、花の苗植え、草取り、山菜採り、ギター伴奏に合わせた歌の合唱などの楽しみごとや食事の下ごしらえ、盛り付け、片づけ、洗濯物たたみ、雑巾作りなど一人ひとりの活躍できる場面づくりや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ほぼ毎日の食材の買出し、散歩、ドライブ等一人ひとりの希望に添って、戸外に出かけようとして支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら、見守りや付き添いのケアで対応している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等予防について、日々話し合い、全職員で共有し、一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や事故発生時に備え、看護師の応急手当の指導はあるが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、夜間を想定した火災・避難訓練を行っている。母体施設からの協力が得られ、地域の人々の協力を得るために運営推進会議で働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は一人ひとりが服用している薬の情報をファイルし、薬の目的や副作用、用法や用量を理解し、共有している。薬は手渡して服用を確認し、必要な情報は医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をすると共に歯ブラシや義歯等の清掃、保管について支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の栄養士から栄養バランスの指導や助言を得ている。一人ひとりの食事量や水分量を記録し、力、習慣に応じた支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、手洗いの徹底、インフルエンザ予防など職員が共有し、実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は明るく、ソファー、椅子、テーブル、畳の間があり、利用者が好きな場所でくつろげるように配慮されている。調理の様子や匂いが感じられ、生活感があり、外のガーデニングが眺められ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、空気清浄器、テレビ、居室入口には家族の写真が張ってある。居室にクッションマットを敷き、転倒予防の配慮をした部屋もあり、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人鹿野福祉会 グループホームせせらぎ
所在地	山口県周南市大字鹿野上2755の1番地
電話番号	0 8 3 4 - 6 8 - 5 4 5 4
開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (10月7日現在)

ユニットの名称	グループホームせせらぎ			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	2	要介護4	0
	要介護2	5	要介護5	1
	要介護3	1	要支援2	
年齢構成	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価表を職員全員に配布。調査内容について勉強会を開き、読み合わせしながら、実施していること、実施していないこと、取り組みたい事を聞き取っていった。
評価確定日	平成 21 年 10 月 15 日

【サービスの特徴】

- ・出来る限り家庭に近い環境で、その人らしく暮らして頂く援助を心掛けています。
- ・一人ひとりのもてる能力を活かし、散歩やお手伝い等をして頂く事で、ADL向上を図っています。
- ・排泄はトイレを目標に、プライバシーに配慮しながら、徹底した随時誘導を行っています。
- ・「手を出さない」「口を出さない」「目を離さない」といった対応を基本に、利用者の出来ない部分への援助を主に行っています。
- ・地産地消に心掛け、季節の地の野菜を多く使い、3食共職員が手料理しています。また、面会時、御家族の希望があれば、実費で検食を提供しています。月に一度、母体施設の栄養士に検食を提供しています。
- ・利用者の話をゆっくり傾聴し、思いに共感する事により、利用者が心穏やかに暮らしていけるように、職員全員の統一介護を目指しています。
- ・ホームの近くをゆっくり散歩したり、地域の行事に積極的に参加したり、買い物近隣へのドライブ等、外出支援に力を入れています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		事業所独自の理念の作成
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		継続して理念の理解と共有に努める。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		施設長と管理者は常にサービスの質の向上について熱心に検討し、状況把握にホームを訪問し、利用者や職員に言葉掛けする事で、職員の向上心を引き出すよう努力している。又、理事長は定期訪問し、現場の声を聞かれている。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		散歩時や外出時には、農作業中野方や出会った方に積極的にあいさつをする等を心がけている。また、近所の方が、畑で出来た野菜等を下さる事も多い。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		自治会には入会していないが、自治体と母体施設の共同盆踊り大会や、地域で行われる祭り等の行事には、積極的に参加している。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地元の行事等には、これからも積極的に参加していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	理事長・施設長より、自己評価を踏まえた改善に取り組むように、管理者は常に指導を受け、それに基づいて職員に具体的に話している。	自己評価表を全員に配布。勉強会で自己評価及び外部評価の意義の理解と活用を具体的に説明して、全員での評価に取り組む事で、外部評価の意義を共有した。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	利用者やサービスの実際、取組状況等は報告している。良い意見は参考にして取り組んでいる。	議事録の整備
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、必ず1名参加して頂いている。	これからも、今以上連携していきたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設長・管理者が頻繁に事業所を訪問し、職員一人一人の性格、援助について把握、また、利用者に声掛けし不満や要望等を聞き取る事で虐待防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用説明書、重要事項説明書を渡すと共に、分かり易い言葉で説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議には、必ず利用者2名の参加をしてもらい、意見を言いやすい雰囲気の中で、お話を伺っている。また、介護相談員が月1回ホームを訪問し、利用者の声を良く聴いている。	管理者、全職員が、利用者一人一人の思いを聞き取れるように、個別での関わりの時間を作るように努めていきたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	暮らしぶりや職員の異動状況は、定期的に作成する新聞で知らせている。金銭管理は、出納帳を作成し、定期的に送付している。健康状態については、病院受診等変化があれば、必ず電話で家族に報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		家族が気軽に意見や苦情が言えるシステム作りに取り組みたい。
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		職員が希望する研修には、出来る限り参加させる。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		前年度から男性職員を配置したことにより、利用者の暮らしに新たな刺激を与えている。
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		これからも、積極的に交流し、他施設の良いところを取り入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		ストレスの軽減は大切であり、これからも取り組んでいきたい。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人から聴き取れない部分を家族や親族から聴き取り、援助に活かしていきたい。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		希望があれば、事前訪問していく。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		生活の様々な場面で、利用者を人生の先輩として学ぶ姿勢を持ち、接していきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用契約時に、入所したらお任せにするのではなく、職員と家族の役割分担を明確化し、一緒に援助していくことを依頼する。家族で無ければ出来ない精神的な援助部分をお願いすることで、職員と共に本人を支えている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入所時は家族関係が悪化しているケースも多いが、家族に精神的余裕が出てきたら、認知症について理解されるように話をしていく。面会時に優しい対応を依頼する。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩やドライブに積極的に出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。家族の写真を身近に置くことで、記憶の消失防止に努めている。		遠方の家族にも、電話や手紙等で関係の維持を図るように努めている。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係には特に配慮し、孤立しがちな人には職員が寄り添い、良い関係の人同士は近くで和めるよう、食事のテーブル配意やソファ等家具の配置に気配りしている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、母体施設に入所された方には、職員が利用者と一緒に散歩を兼ねて面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別援助のケアプランを作成し、毎月ケアプラン会議で、評価や見直しを行っている。緊急に希望が変更したり、変更した対応が必要と判断された方に対しては、毎日の朝の申し送り、ケアプランを検討している。		意思疎通が困難となられた方への意思の汲み取りを課題としたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用契約時、出来る限りその方の生活履歴を聴き取っている。職員が共有出来るように、利用者台帳を作成し把握している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人一人にケース担当を決め、きめ細かい観察をする事で、心身状況を把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	常に本人にとって何が良くて、何を見直すべきかを検討し、家族の希望も聞いた上でケアを考えている。介護相談員等の意見も考慮して介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行っている。体調不良等の急な見直しが必要な時は、主治医、看護師の意見を重視、家族とも相談の上、新たな計画の作成を行っている。すぐにケアプラン会議を開催する事が困難であり、引継ぎの形で共有している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活上の気づきやエピソード等も個別援助記録に経過表として記録している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望に添って、近くの理髪店を利用したり、訪問理美容を依頼している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族、ボランティア、民生委員等の見学は畝に受け入れている。希望される研修も断ることはない。	見学、研修、体験実習、ボランティア等、希望があれば積極的に受け入れている。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		早い段階で、家族に直接主治医と話をしてもらい、方針を決めてもらうように働きかけ、方針が決まれば、家族の希望に添った対応をしていきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>勉強会や引き継ぎ等で、利用者サイドで考える習慣を身につける研修をしている。職員同士で注意し関係作りを重視、思いやりのある言葉遣いの必要性を共有出来るように配慮している。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示が難しい利用者の思いを援助計画に取り入れて作成出来るよう、センター方式を取り入れたケアプランを作成している。</p>	<p>現在、センター方式のうち、5シートを取り入れ実施している。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>火事については、積極的に参加してもらうように、支援している。</p>	<p>男性利用者に対する働きかけが難しいので、支援方法を検討していきたい。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴や食事等大まかな時間は決めているが、入浴は順番を入れ替える等の工夫で、本人のペースで対応している。食事は、個々のペースでゆっくり対応し、職員の都合での援助は極力しない努力をしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日中は寝間着を着替え、本人の好みの物を着用してもらっている。理美容は本人の希望のところへ行けるよう、職員が付き添って対応している。年2回(盆前、正月前)に散髪ボランティアの受け入れをしている。</p>	<p>外出時には、いつもよりおしゃれな服装で、時には、職員が化粧の手伝いをしている。おしゃれをして外出したいという気持ちを大切にしたい。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その日食べたい物を聴き取り、メニューに加えている。直接料理に関わる事は困難になっているが、材料の下準備等は手伝ってもらっている。昼食については、職員も給食費を徴収し、利用者と一緒に同じ食事を摂っている。後片付けは、希望者にはお願いしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>一人一人の好みを知り、出来るだけそれを考慮して、飲み物やおやつを用意している。酒、たばこについては体調面と安全面に配慮し、家族とも相談しながら本人の希望に添って対応している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用。排泄の支援が必要な方は、排泄パターンを把握し、すぐにオムツに頼ることなく、日中はトイレ誘導している。夜間も、リハビリパンツや安心パンツにパット対応の方もおられるが、ポータブルトイレやトイレ誘導での排泄に心掛け手いる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は、一応、月・水・金と決めて実施している。入浴実施時間は大まかに決めているが、個人個人で入りたいと思うタイミングで入浴を楽しんでもらえるよう配慮をしている。		夏場はシャワー浴、冬場は足浴を出来るだけ実施するようにしている。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	安眠休息時間は、本人の自由にしている。但し、昼夜逆転になるケースについては、適当な時間に声掛けしたり、日中に散歩等の適度な運動を心掛け、安眠に繋がるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割については、出来る力を支援して、家事などをお願いしている。職員は、いろんな場面で「ありがとう。」という感謝の気持ちを利用者に伝えるように心掛けている。花見や買い物など、外出の機会を作るなど、楽しみ事や気晴らしに配慮した援助に心掛けている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で管理する事を希望される方には、家族と話し合い、2～3千円程度は所持してもらっている。お金の管理の難しい方は、家族の了承を得て、預かり金として職員が管理している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り一人一人の希望に添って、散歩やドライブ等で、戸外に出掛けられるように支援している。地域の行事等にも、希望があれば積極的に参加している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	自分が住んでいた家や近所にドライブがてら出掛ける事は多い。遠方で職員が対応出来ないときは、本人の希望が叶うよう家族に依頼する。また、遠方の病院に定期受診があるときは、希望者も同行し、買い物等を楽しむ機会にしている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に電話を希望される方には、事務所の電話を私用してもらっている。希望者には、自室に電話の設置が可能となっている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人の訪問には、居室で和やかに過ごせるように椅子やテーブルを用意して、お茶等でおもてなしをしている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。			利用者や家族の希望があれば、適切に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時は母体施設の協力が得られるよう手配している。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用契約時、拘束しない対応の利点とリスクについて、十分に説明し理解を得た上で入所して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	排泄・水分摂取・食欲の有無などに十分気を配る。体調の変化を感じたら、バイタルチェックをし情報を共有している。特に、変化があるようなら早急に看護師に連絡・相談する。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	処方説明書を看護師に提出し、情報を共有している。職員は、一人一人の薬について理解するよう努めている。服薬による症状の変化については記録をし、必要な情報は医師と薬剤師にフィードバックしている。		医師や看護師と連携を密にして、本人に合った服薬調整が出来るように配慮していきたい。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘については、出来るだけ薬に頼らず、繊維質の多い食物摂取やヨーグルト、十分な水分補給や散歩等の適度な運動に心掛けている。改善が見られないときは、症状に合わせて主治医の指示のもと、服薬調整している。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、個々に合わせ、うがいや歯磨きをしている。		利用者で歯科受診を希望される方については、近隣の歯科受診に職員が付添っている。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量は一目で分かるように記録し、一人一人の状態ですら十分に摂取出来る援助をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、勉強会等で対応について学び実施している。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防の為に、夏場は出来る限り生ものを避け火を通すよう対応している。調理した物は2時間以内に処分し、残りを次の食卓には出さないようにしている。まな板は、毎日熱湯消毒している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープを設置し、安心して出入り出来るようにしている。玄関周りは、季節により鉢植えの花などを置いて美観に配慮している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	居室入口に家族との写真を貼ったり、和紙等で作成した表札等を飾り生活空間を演出している。草花が咲く頃には、散歩に出掛けて摘んできた野の花を飾り、季節感を出している。また、レースのカーテン等で光の調節に配慮している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間には和室があり、座り込んだり、寝転んだり自由に過ごしてもらえるようにしている。また、リビングにソファを多く設置して、利用者が好きな場所に座ってくつろげるようにしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドは備え付けであるが、その他の家具については、馴染みのある使い慣れた家財道具を持ち込めるスペースを確保している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレは、毎日水を流して掃除し、悪臭がしないように期を配っている。天気の良い日は窓を開けて換気に努め、衣類調節をこまめにして、外気温と大きな差が生じないように温度調節をしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置、トイレも歩行器や車椅子が使用できるスペースを確保し、自立を図っている。廊下等の共同空間も歩行器ですれ違える広さを確保している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入り口に家族の写真を貼ったり、大きな文字での表札を飾り、自分の居室が分かり易いようにしている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	季節の良い日には建物の外周リやテラスにベンチを用意して日光浴・夕涼みをされている。また外周リに、ゴーヤやミニトマト等の野菜を育て、日々の成長を楽しんだり、収穫して食材とした。玄関のスロープには手すりを設置、安全に活動できる配慮している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない